

# TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

水産エコラベル認証における審査員の力量の明確化  
とその改善手法に関する研究

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2024-05-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 矢野, 雅 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/2000203.2">https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/2000203.2</a>

## 【課程博士】 (博士論文審査及び最終試験の結果要旨)

学生氏名：矢野 雅

博士論文題目：水産エコラベル認証における審査員の力量の明確化とその改善手法に関する研究

### 博士論文審査：

学生から提出された博士論文について、公開発表会が2月9日に行われ、審査委員と学生の間で質疑応答が繰り返さされ、本博士論文は水産エコラベル認証における審査員の力量に係る要因を、統計的手法を用いて明らかにし、審査員の力量向上に向けたいくつかの改善策を提示している。第三者認証の審査の信頼性向上や均質化に資する知見の一断面が明らかにされていると評価され、博士論文としての質を十分に確保しているとの結論に至った。

本研究は、本の漁業の特徴を反映させた日本発の水産エコラベルである MEL 養殖認証について、広く普及している第三者認証規格である ISO 認証においてさえ十分な施策が確立されているとは言えない審査員の力量（質）について、審査報告書初稿の認証機関におけるレビュー及び第三者によるピアレビューの指摘項目の割合を統計的に解析し、審査員の力量に係る要因を明らかにしたものである。また、数値化できない審査員の資質等についてはアンケートの実施とその結果の DEMATE 法による解析を通して審査員の力量を構成する要素同士について相互の影響・関係性の強さを求め、審査員の力量を測る因子の構造の把握を試みている。

審査報告書初稿の認証機関におけるレビューで① 規格・手引きの理解不足、② 根拠不足、③ 説明不足の各カテゴリーに分類し、それぞれに該当する指摘がなされた割合を経時変化、審査員のランク、報告書作成経験、審査員資格維持の研修（CPD）受講回数、ピアレビューを受けた回数など審査経験に係る要因との関係を調べたところ、最も指摘割合の減少に関係していたのはピアレビューを受けた回数であった。また、DEMATE 法による解析では、審査員の力量にとって重要度が高いのは『養殖認証の規格解釈』、『養殖に関する知識』、『根拠資料の読解力』であり、それに対する影響度は『研修』が高く、研修が起点となり他の要素を経て『養殖の規格解釈』へ向かう全体構造を示唆している。（第2章）ピアレビューの解析では、審査報告書の質保証のための認証機関でのレビュー機能の向上に有効であること、ピアレビューによる指摘は報告書初稿の出来にも左右されること、認証機関の指摘漏れも一定数発生していることを示唆している。（第3章）

以上の成果は、これまで概念的であった第三者認証の審査員の資質向上に関する要因を明らかにし、資質向上に向けた施策の立案に資する実践的な知見を提示した研究といえる。

以上の内容から、学生から提出された論文は、複雑な要因による審査員の力量を客観的に評価する第一歩となる研究であり、水産養殖に関する社会科学分野における学術的意義、新規性、独創性及び応用的価値を有しており、博士の学位に値することを審査委員一同確認した。

### 最終試験の結果要旨：

最終試験は2月9日に行われた。審査委員一同出席の下、学生に対して、博士論文の内容について最終確認のための質疑応答を行い、その内容は十分であった。一方、専門知識については公開発表会当日の質疑応答時や予備審査時でのディスカッションを含め十分であると審査委員一同確認した。学術論文は1編が第一著者として採択済み（矢野雅・舞田正志：フードシステム研究）であること、国内学会1回で講演発表していることを確認した。

英語の学力については、2月9日に要旨の英訳を課して判定した結果、博士の学位に相当する英語の学力を有することを確認した。

大学院海洋科学技術研究科が指定した研究者倫理教育を修了していること、合同セミナーは規定の出席回数を満たしていることを確認した。また、大学院海洋科学技術研究科が指定した方法により剽窃のチェックを行った結果、一致率は27%と断片的な一致であり問題は認められなかった。

以上から、学生について博士論文審査、最終試験とも合格と判定した。